

ダム博物館の設立について

2017.3.10

(一財) 日本ダム協会

ダムに関する様々な作品や物品を展示し、関連情報を提供する「ダム博物館」の設立を企画し、検討してきた。基本的事項の検討に当たっては、有識者から成る「ダム博物館設立アドバイザー委員会」を設置し、3回の開催を経て基本的方向が定まり、それに沿って、昨年10月にウェブサイトとしてダム博物館(本館)を公開し、分館である写真館を浦山ダムのうららびあにオープンした。以下は、その概要である。

1. 趣旨

ダムに興味を持ったり、魅力を感じたりする一般の方々が急激に増加し、ホームページやブログ、またツイッターなどでの発言も目立っている。男女を問わず、世代を超えて、ダムへの興味が幅広く一般化してきている。

このような中で、ダムの写真や映像、ダムの果たす役割や機能、技術や歴史、ダムを題材とした小説など、ダムに関連する広範な分野について、より深い知識と情報を求めて人々の興味は広がってきている。

このような大きな流れを踏まえて、一般の方々を対象として、より高度な作品やダムにまつわる貴重な物品に接することができ、またダムの技術、歴史、役割などの深い知識情報が得られるよう、常設の展示場である「ダム博物館」を設立する。

2. 計画の概要

(1) 全体構想

将来を展望した全体構想としては、Virtual (ウェブサイト、これが本館) と Real (実際の展示館) を組み合わせ、Real (実際の展示館) はテーマ別に分館方式で複数のダムに設置するような形態とする。

このようなユニークな形態となったのは、ダムに関連する分野は多岐にわたり、展示を考えただけでも相当の面積が必要であり、これを1カ所のダムの展示スペースで実現するのは無理があるので、複数の分館が補完・協力し合う方式が選択されたものである。これにより、状況に応じた段階的な整備も可能となる。

(ユニークな形態)

◎ Virtual + Real

Virtual (ネット上): 本館 (全体像を多くの人に伝える) = 入口 (ポータル)

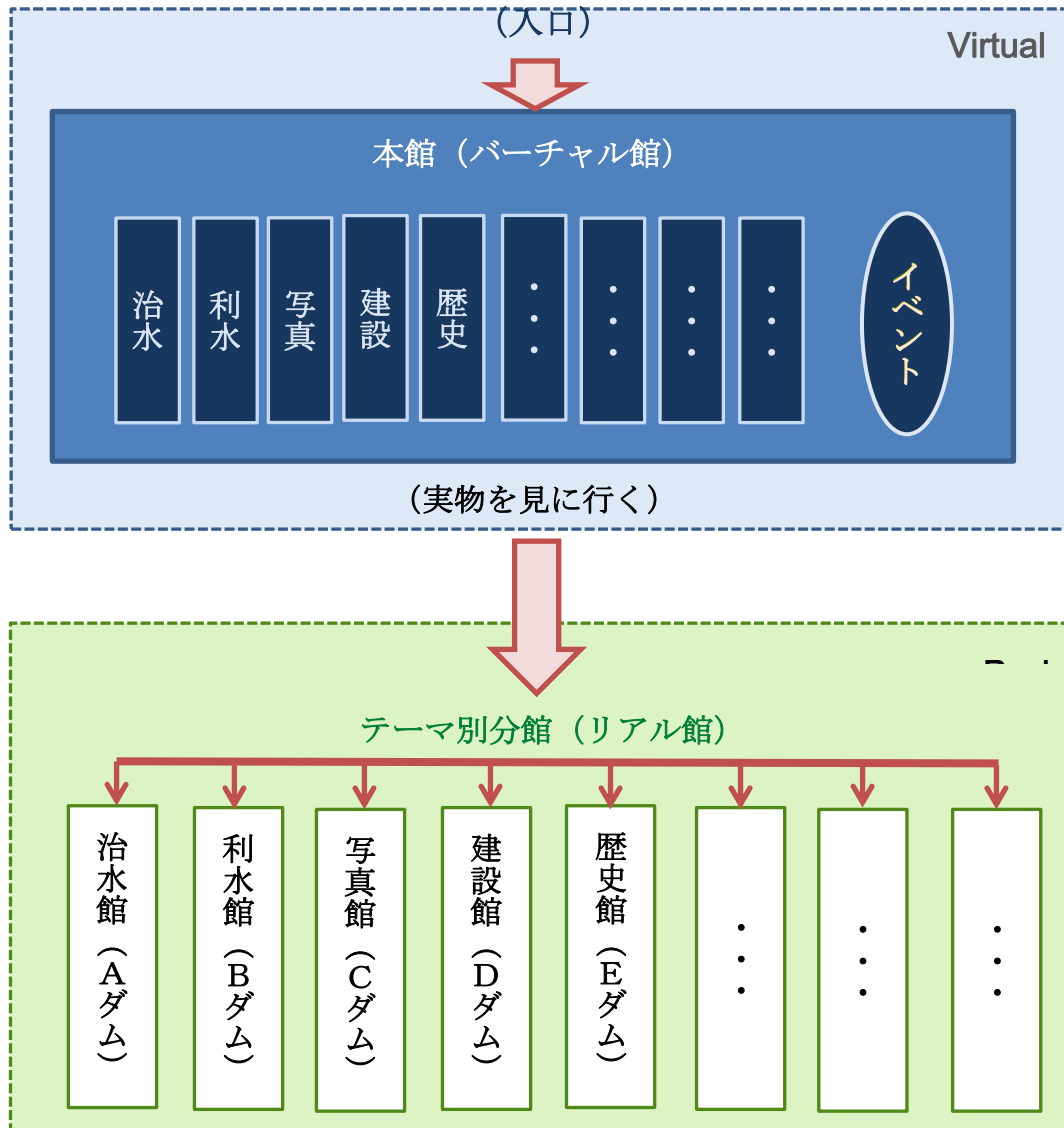
Real (ダムにある): 実物を見る

◎ 分館方式

ダムにある複数のテーマ別分館が役割分担

→ 個々の分館の狭さを複数で補完

→ (時間的・内容的) 段階整備を実現



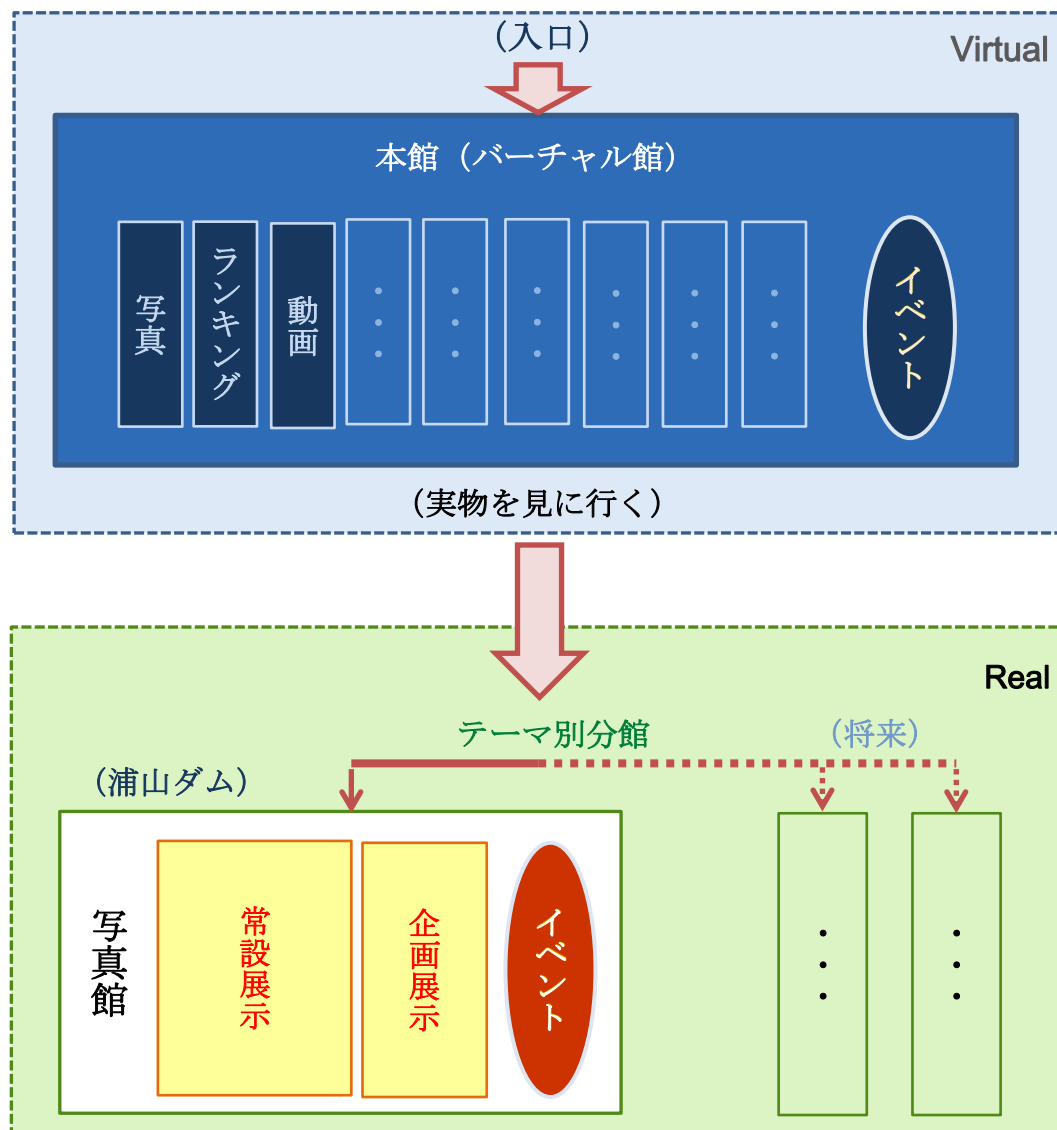
(2) ダム博物館・本館

本館はウェブサイト（Virtual）であり、総合的な内容を持つ。本館で興味を持った事柄について、テーマごとの分館（Real）に足を運んでもらうような、いわば入口の役割も持つ。2016年10月3日（月）に本館を公開した。

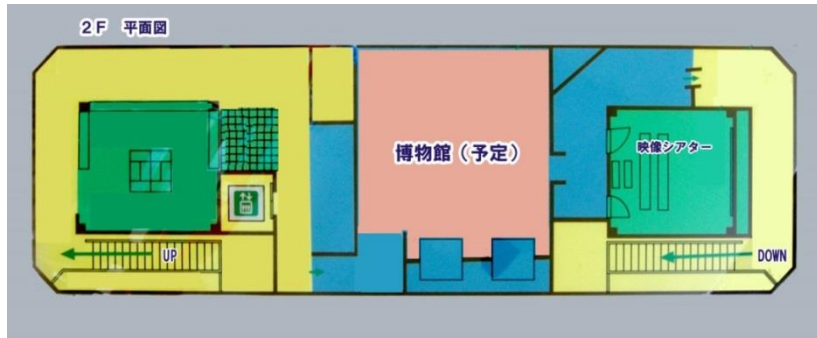
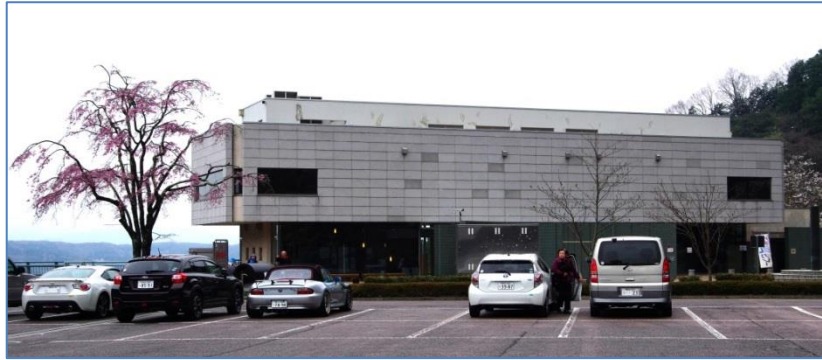
（本館 URL : <http://damhaku.jp/>）

(3) 浦山ダムに写真館を開設

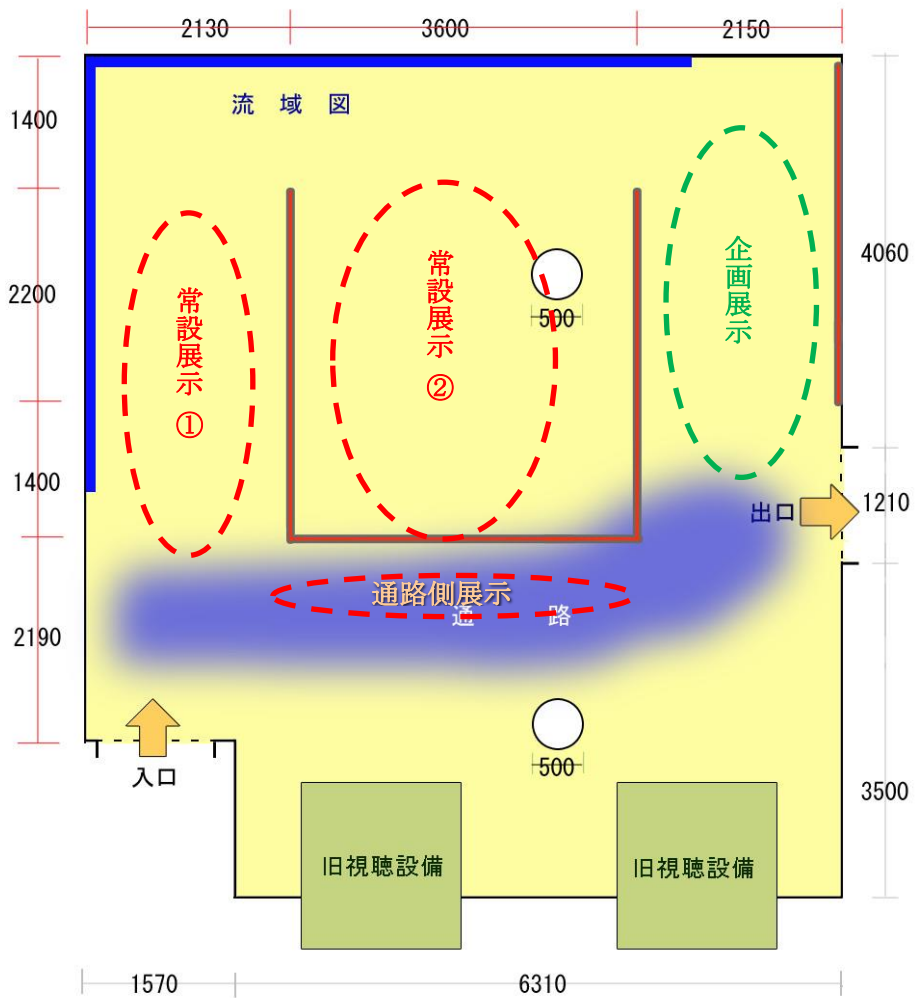
全体構想を踏まえ、水資源機構のご協力を頂き、浦山ダムの「うららびあ」の一部をお借りして分館第1号となる「ダム博物館・写真館」を2016年10月29日（土）にオープンした。



うららぴあ



(写真館の内容)



①常設展示

優れた作品を常時展示（必要に応じ入れ替え）

②企画展示

一定期間で入れ替える

第1回（オープン時に開催）は「ダム放流写真展」

（展示作品は新たに一般から募集する）

③イベント

オープニングイベント

写真館のオープンに合わせて実施した

随時イベント

オープン後も適宜、隣の「映像シアター」（右写真）などを利用してミニイベントを実施することを検討している



[参考]

ダム博物館設立アドバイザー委員会
委員名簿（平成27年12月6日現在）

尾崎 雅史	独立行政法人水資源機構総務部広報課長
川崎 秀明	（一財）ダム技術センター首席研究員
楠見 正之	大成建設（株）土木本部ダム技術室参与
窪田 陽一	埼玉大学大学院理工学研究科教授
澤井 莊司	荒川商工会会長
自閑 茂治	独立行政法人水資源機構理事
庄嶋 興志秀	写真家
角 哲也	京都大学教授
Dam master	ダム好き
◎ 西山 芳一	土木写真家
萩原 雅紀	ダムライター
水野 良	（株）フジタ建設本部シニアコンサルタント
夜雀	ダム好き
琉	ダム好き
◎印 委員長	